

## Part 2

# 感染症診療を支える 細菌検査の役割

近年、市中において輸入感染症や人獣共通感染症の拡がりが問題となり、また医療施設での耐性菌感染症も複雑化する一方です。そのような状況のなかで効果的な感染症診療や感染制御を実践するためには、細菌検査の多様化と結果報告の迅速性が求められています。

### 細菌検査365日体制

当院の検査部では、365日体制で細菌検査を実施して感染症診療を支援しています。とくに培養検査は結果報告までに数日を要しますが、休日のブランクを無くすことで早い結果報告が可能です。また、グラム染色の迅速報告や培養検査の中間報告を多用して、抗菌化学療法の評価を促しています。とくにグラム染色は①菌形態から菌種の推定②好中球の貪食像から起炎菌を判断して、早い時期から抗菌薬の適正使用を可能にしています。



データを中間報告しながら検査をすすめる

### 輸入感染症の迅速診断検査キット

マラリアの確定診断は、ギムザ染色した末梢血液標本を鏡検して原虫を形態的に鑑別同定します。同時に診断補助として、マラリア原虫の蛋白を検出する診断キットも実施しています。また、デング熱のデングウイルスIgM抗体を検出する診断キットも導入し、いずれも15分で結果が得られることから、感染症内科の迅速な診断治療に対応しています。



マラリア診断簡易キット

検査部  
検体検査課長

高橋 俊司



### 血液培養の採取時期と2セット採取

血液培養は血流感染症を診断する重要な検査です。正しい血液培養の実施は患者予後の改善、入院日数の短縮、また抗菌薬の適正使用に役立ちます。正しい血液培養には「適切な採取時期」と「培養ボトル2セット採取」が必要です。

- ◆血液培養の採取時期は、悪寒やショックなど血流感染が疑われたら出来るだけ早く採血することが重要です。一過性または間欠的な菌血症の細菌は、細網内皮系で15～30分で処理されてしまい、発熱のピークをみてから採取したのでは検出感度が低下するのです。
- ◆血液培養ボトル2セット採取の意義は、①血液量を多くして検出感度を高める②表皮ブドウ球菌など皮膚常在菌の汚染を鑑別することです。当院の2セット採取率は7割まで高まり、血流感染の診断治療に貢献しています。



それぞれ異なる血管から2セット採血する

検査部には、耐性菌やその感染制御の考え方などの知識をもつスタッフ（感染制御認定臨床微生物検査技師2名）がおります。耐性菌データの判断でお困りの際はご相談ください。

感染症の原因微生物は細菌、ウイルス、原虫、寄生虫など様々です。これからも変貌する感染症へ柔軟に対応できる細菌検査（体制）を目指しています。